

# 八尾市で 母子餓死事件が発生

～生活保護を利用していたのに、なんで“餓死”!?～

## 八尾市民のみなさん

昨年2月22日に生活保護を利用していた母（57歳）と長男（24歳）が遺体で発見されるという痛ましい事件がありました。

## 八尾市母子餓死事件調査団発足

生活保護利用中にもかかわらず、なぜ亡くなられたのか。このような痛ましい事件が起こらないためにどうすればよいのか。それを解明するため、弁護士、司法書士、専門家、市民団体で八尾市母子餓死事件調査団を結成し、八尾市と懇談を繰り返すなど活動を行っています。

母子が亡くなるまでの経過は裏面にまとめました。  
ぜひお読みください。



## 八尾市の生活保護でのひどい対応について聞かせてください

★生活保護を利用したいと福祉事務所に行っても追い返された

★生活保護を利用しているが「こんなイヤな思いをした」

八尾市母子餓死事件調査団では、この母子死亡事件のように、八尾市で他にも生活保護のひどい事例があるのではないかと考えています。下記の連絡先の電話やFAXでも受け付けています。または、QRコードを読み取っていただくと入力画面が表示されますのでぜひ、ご意見をお寄せください。

※お寄せいただいた事例については、個人が特定されないようにした上で、公表することがあります。



## 八尾市母子餓死事件調査団

【連絡先】八尾生活と健康を守る会

☎ 072-997-5666 FAX 072-997-5540

全大阪生活と健康を守る会連合会

☎ 06-6447-5105 FAX 06-6447-5106

八尾市母子餓死事件調査団は、八尾社会保障推進協議会、八尾生活と健康を守る会、生活保護問題対策全国会議、全大阪生活と健康を守る会連合会、弁護士、専門家などで構成されています。

## 八尾市の対応ここが問題！ ※調査団の2021年2月16日付要望書から

- ① 長男もいるのに母親ひとり分の保護費だけ支給
- ② 月2万円(国が示しているめやすの4倍)も返させていた
- ③ 2カ月にわたり保護費を取りに来なかったのに安否確認をせず
- ④ 連絡がつかないだけで「失踪」を理由に保護を打ち切り
- ⑤ 担当者だけで判断し、組織的な検討をせず
- ⑥ 働ける年齢層に厳しい対応

詳しくは、生活保護問題対策全国会議のホームページをご覧ください。  
<http://seikatuhogotaisaku.blog.fc2.com/blog-entry-386.html>

## 生活保護利用中の母子が死に至った経過

2018年11月 長男が働き始め、祖母宅に転出したとして「世帯員削減」母親のみ保護。1人分の7万6310円生活扶助費と3万9000円(実際の支払家賃は5万5000円)の住宅費を支給。

「孫と暮らしたことはない」と祖母は証言。「世帯員削減」後も母子は一緒に暮らしていた。

2019年1月 長男仕事を辞める。  
2019年5月 料金滞納によって水道の停水措置を受け、家賃滞納によって借家を追い出される。公園で寝泊りしていた母子、母の友人宅に宿泊。  
2019年6月10日 母子が福祉事務所を訪れ、保護再開を求める。  
2019年7月5日 母親一人世帯として保護を再開するが、2018年暮れに使い込んだ転居費用20万円を、月2万円の返還を求められる。  
2019年8月5日 水道料を滞納し、督促を受ける。11月も滞納、停水予告を受ける。  
2019年12月26日 母親は1月分の保護費を取りに来ず。保護費を取りに来なかった人のうち、「連絡つかず」はこの母親のみ。  
2020年1月8日 水道局から停水予告書の投函あり(15日に停水される)。  
2020年1月8日 職員が訪問、家の中に入らず。  
2020年2月5日 2月分の保護費も取りに来ず。  
2020年2月10日 職員が訪問、無施錠だったが中に入らず、連絡票のみ投函する。

「鍵が開き人の気配がなく、異臭もしない。連絡が取れず居どころもわからない。  
失踪の要件に該当すると判断した(生活福祉課長のコメント)」(2021年1月11日付朝日新聞)

2020年2月18日 「失踪」理由に保護廃止を決定。「失踪」理由の保護廃止はない。  
2020年2月22日 母親のケアマネージャーが母子の遺体を発見。

「2020年2月22日 ケアマネージャーが要支援2の母親宅を訪問。二人の遺体を発見[略]母親は死後1ヵ月[略]息子は[略]死後10日ほど」「担当係長は『12月初めに会った時は『家計が苦しい』と言いつつも元気そうで、まだ57歳なので普通に暮らしていると思っていた』」(2021年1月11日付朝日新聞)